

「ザ・ハッピーファミリー」!

作・作詞…

保科由里子

登場人物

メアリー（娘。大学生）：

メグ（母）：

ミッチ（父）：

リンカーン（犬）：

遅れ客（ミス・ヴァリー）：

ぼく（佐藤達也）：

場所

『HEAD』カンフェレンス会場。（『TED Talks』に似た空間）

時

今（二〇一六年）。

*文末に句点のない文章は次のセリフがカットインすることを意味する。

初演

二〇一六年三月九日（水）—十三日（日） @日暮里O-倉庫

《第一場》

(『TED talks』を真似た) 『HEAD Talks』カンフェレンスの会場。セットは全く素舞台。

劇場の舞台がカンフェレンスの舞台となり、客席がそのままカンフェレンス会場の客席となる。

拍手と共に、客席を通過してぼく登場。爽やかなで、非常に感じの良い20代後半の青年。

ぼく： (客席に向かってお辞儀をし、客席に直接話しかける) みなさんこんにちは。どうも、こんにちは。佐藤達也です。ちひひひ。いやあ緊張しますね。

今日は、この、憧れの『HEADカンフェレンス』の舞台に立って幸せです。お招きありがとうございます。ちひひひの『HEADカンフェレンス』は、ヘッド、つまり、(頭を指差して) HEADのことで話す場です。えーと、HEADのイェ、ユーモラス (Humorous)、エドハーターテインメント (Entertainment)、アンド、そのプロトタイプデザイン (Design) の略、つまり、ユーモラス・エンターテインメント・デザイン、という意味ですね。『HEADカンフェレンス』はカナダのバンクーバーで毎年大規模な世界的講演会を主催していて、広める価値のあるアイデアを持っている人を引っつけて招き、話してもらっています。そして、今日は、この東京で開催されるこの会場で話しますね。

では、本題に入ります。えーと、今日ぼくは、幸せについて、『人が幸せに生きるための方法』についてお話したいと思います。ぼくが長い間実践してきた方法なので、じつとやじつこの話を聞いたら、広められると思うんですけど。

ぼくは毎日とても幸せです。嫌なことが起きても、瞬時に癒える、乗る越えることができます。毎日、笑顔で元気でハッピーです。みなさん、幸せになることについて興味はありますか？ みなさんも、日々幸せに暮らしたら、生きられたら、と考えると思いますよ。

ぼくのセリフの最後の辺で、劇場の外のロビー（ホワイエ）から声がする。

遅れ客が、場内案内のスタッフに誘導されながら劇場へ入ってくる。

遅れ客は、朗らかで人当たりの良さそうな30代後半の女性。

遅れ客：

（スタッフに小声で）もう始まりましたね、いやだごめんなさい、がんばって走ったんですけどね、駅から道に迷っちゃったし電車が遅れてだし、グーグルマップがなんか分かりにかかったし

遅れ客は、ぼくが話すのを止めて見ているのに気づく。

遅れ客：

あ、ごめんなさい、もしかして止めちゃいました？ やだ恥ずかしい。

ぼく：

全然大丈夫ですよ。

遅れ客：

（スタッフに）あれ？ 私の席どこですか？

ぼく：

（照明ブースの方に向かって）あ、すみません、ちょっと暗いみたいです。

客電めがる。遅れ客の顔と姿を認識される。

遅れ客：

（席に座りながら）お、明るくなったすごい。やだホントすいません。電氣便利く。あ、お話しを続けてください。

ぼく：

ああ、えっと、今始まったばかりですし、落ち着かれるのを待ちます。

ジャケットを脱いだり鞆を置いたり、なかなか落ち着かない遅れ客。

ぼく： はい、ジャケット脱いだりね。ついでに携帯の電源もご確認ください。

遅れ客： そうそう携帯ね。忘れちゃうのよねえ。ちゃんと切ったかないと。

ぼく： 言いながらも遅れ客、大体準備ができる。

ぼく： (深呼吸) はい、もついいですか？ みなさん大丈夫ですね？ では、

客電下がる。

ぼく： あ、ありがとうございます。えーと、ではどこまでお話ししましたっけ？ えーと、あさうそう、『人が幸せに生きるための方法』についてですね。まず最初に、ぼくの実践方法をご覧頂きたいと思います。家族の話です。そこはイベントがたぐひな話です。ですから、まばたきしないで見てくださいね。では、始めましょう。ある朝のことです。

ぼくはメインステージの外に出て壁際に置いてあるパイプ椅子に座り、これから起こるシーンを
見守る。

M1の歌中で、各役がマウンテンポイント家のリビングルームセットを運び込み、リビングルームをセ
ットアップする。

みんなとても元気でハッピーで、まるで50〜60年代のアメリカのファミリードラマの登場人物達のように

である。しかしそれは、大袈裟とかふざけている訳ではなく、大真面目で少しだけ過剰なのである。
また、それぞれ年相当に見えれば良い。

♪Mī「グッドなモーニング！」

犬のリンカーン、母のメグ、父のミッチ、娘のメアリー、それぞれ自分の歌と共に登場する。

リンカーン：グッドなモーニング！ 良い朝だ 元気な朝だ ワンワンワン

メグ：グッドなモーニング！ 良い天気 素敵なお朝よ ランランラン

ミッチ：グッドなモーニング！ 良い気分 最高の朝 ハイハイハイ

メアリー：グッドなモーニング！ 良い機嫌 笑顔なお朝 ニコニコ

ミッチ：グッドなモーニング ワールド！ 今日も生きてる ありがとう！

メグ、メアリー、リンカーン：ありがとう！

メグ：グッドなモーニング アメリカ！ 今日世界は ヒューティフル！

ミッチ、メアリー、リンカーン… ビューティフル！

メアリー… グッドなモーニング ファミリー！ 今日も笑顔で 幸せだ！

リンカーン… イエス！

全員… 幸せだ！

リンカーン… 腹が空いた

今日の朝飯なんだろ 食べるの大好き ワンワフワン

メグ… みんな起きて

美味しい朝食の時間 お料理大好き ランラララン

ミッチ… 腹が空いた

腹が空いて目が覚めた 食べるの大好き ハイハイハイ

メアリー… 新しい日

今日は私の誕生日 プレゼント大好き ニニココン

ミッチ、メグ… ハッピーバースデートゥーユー ハッピーバースデートゥーユー

ハッピーバースデー ティア メアリー

ほく、さのげなく、でも堂々と歌の輪に入る。

ミッチ： ハッピーバースデー、メアリー。

メグ： ハッピーバースデー、マイバースデーガール。

ほく： おめでとう、メアリー。

リンカーン： オーマイガ 忘れてた 俺としたことが

大事なメアリーの バースデー忘れるなんて

メアリー： ありがとうサンキュー みんなみんな 私嬉しいハッピーよ

リンカーン： オーマイガ 信じられない 自分のことが

愛するメアリーの バースデー忘れるなんて

ミッチ、メグ、ほく： おめでとハッピー メアリーメアリー みんな嬉しいハッピーさ

リンカーン： ごめんなソーリー メアリー 俺も嬉しいハッピーだ

メアリー： ありがとうサンキュー みんな 私嬉しいハッピーよ

ミッチ、メグ、リンカーン、ぼく… ハッピーバースデー マイティア メアリー

全員… グッドなモーニング！ ハッピーなバースデー！

私たち最高家族 ハッピーファミリー

メグ… ランラララーン

ミッチ… ハイハイハイ

メアリー… ニコニコーン

ぼく… シャンジャカジャーン

リンカーン… ワンワフワーン

全員… グッドなモーニング！ ハッピーなバースデー！

私たち幸せ家族 ハッピーファミリー

後奏中に、ぼくはざりげなく、でも堂々と輪から外れパイプ椅子に戻る。

歌い終わったミッチ、メグ、メアリー、リンカーン、楽しそうに笑う。アメリカのホームドラマに登場しそうな、ハッピーファミリーである。

出来上がったリビングルームは、食卓、椅子、ソファ、コーヒーテーブル、コート掛け、棚、玄関、窓などがある。

ちなみに、犬のリンカーンは人間と同じように二足歩行で良い。また、彼が話すことはミッチ、メグ、メアリーには「ワンワン」と言ってるように聞こえている。

ミッチ… (愛情深く) 僕の世界一大切な家族たち。おはよう！

メグ… おはよう、ミッチ！

メアリー… おはよう、ママ！ パパ！

リンカーン… おはよう、みんな！ 早く朝飯にしようぜ。俺は腹ペコだ！

メアリー… おはよう、リンカーン。

リンカーン… メアリーラヴ！

ミッチ… 二人は今朝もなんて美しいんだ、まるで夢のようだ。

メグ… でも夢じゃないのよ！

ミッチ… なんだって?! 僕はとんでもなく幸せ者だ！

メアリー… あら、パパだってとってもハンサム。私の自慢だわ！

メグ… そして私の夫なのよ！

メアリー… そんなこと知ってる、ママったら愉快なんだから！

みんな楽しそうに笑う。

ミッチ… 自慢だなんて、朝からとっても嬉しいよ。

メグ… なんて良い娘に育ったんでしょう。

ミッチ… きみのおかげだよ。

メグ… いやだわミッチ、あなたのおかげよ。

ミッチ… いやいや、きみの

メグ… いやいや、あなたの

リンカーン… いやいや、朝飯

ミッチ… いやいや、

メグ… いやいや、

リンカーン… い

メアリー… やだもう二人のお・か・げ。だって、私はママとパパの自慢の娘だもの。ありがとう愛してる。

ミッチとメグ、お互いを見つめ、照れる。

リンカーン… 俺はメアリーを愛してる。さあ朝め

ミッチ… さあ！ 輝かしい1日の始まりだ！

メグ… 今日は、『スペシャル』輝かしい1日、でしょ。

リンカーン… スペシャルなシャイニーデーだ。だからきつとスペシャルな朝飯！ 俺ハングリ！

メアリー… ありがとうみんな。私の大好きなファミリ！ 私、とってもハッピー！

家族3人でハグ。ハグに混ざれないリンカーン。

リンカーン… 俺もとってもハッピー。さあ朝め

メグ… あら！ もうこんな時間。みんな急いで、遅れるわよ。ミッチ、まだネクタイ忘れてるわ。

リンカーン… えちよっこ。

ミッチ… 本当だ。僕は今日もそっかっかしいな。

リンカーン… おいちょっと。

メアリー… もうパパったら。

リンカーン… ちょっと待って待って。これは、もしかしてあれか、朝飯はもう食べたっていうことなのか？

ネクタイを取りに部屋へ戻るミッチ。

メアリー… ねえママ、今日のパパはどんなネクタイを選ぶと思う？

メグ… そうねえ、今日はスペシャルなデーだから、きっとスペシャルなネクタイを選ぶと思うわ。

メアリー… じゃあ賭けね。

メグ… もうあなたはすぐ賭けたがるんだから。賭けたがりさん。

二人楽しそうに笑う。

リンカーン… おいおいおい。ギャンブラーみたいな言い方やめろ。俺のメアリーはそんな娘じゃない。大体今のは賭けになってない。でもそんなおっちょこちょいさんがかわいいぜ、メアリー。

メグ… ほら、あなたも急いで支度しないと。ハリーアップ！

リンカーン… そして、これはやっぱりあれだな、みんなはもう朝飯食べたっていうつもりで話は進んでるんだな？

メアリー… でも今日は私の誕生日。最高に気分が良いんだから遅刻なんてヘッチャラよ。

メグ… もうあなたはすぐ遅刻するんだから。遅れたがりさん。

二人楽しそうに笑う。

リンカーン： ちょいちょいちょい。それはダメなやつだろ。遅刻はダメだぜ、メアリー。どこまでもおっちょこちょいさんだな、相変わらず目が離せないぜ。っていうか、これはあれか、さては、俺がメアリースバースターをフォゴットだから、俺に朝飯抜き刑なのか？ ライ(Lazy)？

ミッチ、スペシャルなネクタイをして、コートとカバンを手に持って登場。

ミッチ： さあ、今日のパパは素敵かい？

メアリー： パパ！ 今日もとっても素敵！

ミッチ： 僕のかわいいメアリーにそう言われたら、パパは1日ハッピーヴェリーマッチだ。

メグ： まああなたったら。

三人、幸せそうに笑う。

ミッチ： このネクタイ、どうタイ？

リンカーン： どうたいって。たいって。あ、the necktie. ウケる。

メアリー： (カッティンして) 良いみタイ。とっても似合う。きっとそのネクタイを選んだ人の趣味がバツグンに良いのね。

メグ： まあ誰が選んタイのかしら？

メアリー： うふふふふ。

リンカーン： あ！ 分かった！ それ！ 俺分かった！ はいはいはいはい！

メアリー： しい。パパが考えられないでしょ、リンカーン。

リンカーン：でも俺分かったよ！ それ！ ワンワンワンワン！

メアリー：リンカーン。

メグ：答えが分かったのよね。

リンカーン：さすがメグ！ 飯くれる人間はやっぱり違っぜ。そのネクタイは、

ミッチ：去年メアリーがバイト代で買ってくれた最強に素敵なブレンダ。

メアリー：ザッツライト！ パバ正解！！

リンカーン：あーあーお前言うなよ俺が答えたかったのに。

ミッチ：さあ、スーパーハッピーウェリーマッチになったことだし、そろそろ出掛けるよ。

メグ：あなた、今日は早く帰って来てね（合図のウィンク）。

ミッチ：もちろんさ（合図のウィンク返し）。

リンカーン：なにになになに。今のなに！ 俺見た！ ちょっと、なんだよ。今のウィンクなんだよ！ 俺だって（と、

メアリーにウィンク攻撃）！

ミッチ：じゃあ行ってくるよ、ハニー。

メグ：行ってらっしゃい、バニー。

メアリー：行ってらっしゃい、パピー。

リンカーン：メアリーラヴー！

メグとメアリーはミッチとハグしてホッペにキス。

出掛けるミッチ。

MM「アイラブメアリー」

メアリー： ねえ、今夜のバースデーディナーは何作ってくれるの？

メグ： (とぼける) さあ何かしらっ。

メアリー： フオなんだろう！ ママの手料理はどれもとってもデリシヤスだから何でも嬉しい！

リンカーン： なあ、晩飯は本当に食べよつな。

リンカーン： 俺はメアリーを愛してる。メアリーも俺を愛してる。当たり前だ

15の時から知ってる。その時からいつとも一緒。ずっと友達。これからも

俺にも負けず風にも負けず。(シユフシユフ) (一緒に散歩に行くんだ) ドゥフドゥフ

どこまでも(シユフシユフ)

ハイハイ マイガール アイラヴユー

アイラヴユー アイラヴメアリー

メグ： そろそろあなたも……

メアリー： 分かってる、行ってきまーす！

メグ： 行ってらっしゃい、私の愛しいバースデーガール。あなたは本当にスペシャルなドーター。

メアリー： ありがとう、ママ。

リンカーン： 誰にも負けないこの想い。そっぴ。相思相愛なんだ。当然の前だ

メアリーがいないと俺は生きていけない

メアリーもまた然り。俺がいないと生きていけない

雨が降ろうが槍が降ろうが(シュワシュワ) 一緒に一緒に居るんだ(ドゥッドゥッ)

いつまでも(シュワシュワ)

ハイハイ マイガール アイラヴユー

アイラヴユー アイラヴメアリー

ハヴアナイスデー メアリー! メアリー!

メグとメアリーはハグとキス。

リンカーンは混むろうとしますが、混むれない。

玄関のチャイムの音。

メグ： あら、こんなに朝早く誰かしら。

メアリー： パパが忘れ物したんじゃない？

リンカーン： おかえりおかえり!

メグ： ミッチったら、そそっかしいさん。

メグ、メアリー、リンカーンは、玄関へ向かう。

もう一度チャイムの音。

メグ： そそっかしいさんは二度ベルを鳴らす。

メアリー： パパの忘れっぼいさん!

リンカーン： おかえりおかえりおかえり!

と、3人は、ドアが開くのを待つ。
しかし、誰も入ってこない。
間。

3人が困った感じになっている。
すると、先ほどの遅れ客がおもむろに座席から立ち上がり、まるで何かに引きつけられたかのように、キョロキョロしながら、突如舞台上がって一度舞台袖に退場し、改めて玄関から入ってくる。
ミス・ヴァリーは状況を理解していないが、ドアを開ける。

ミス・ヴァリー： ……（恐る恐るドアを開けながら）……おはよう………ごさいます………？

一瞬の間。

が、メグとメアリーは何事もなかったかのようにビッグスマイルでミス・ヴァリーを受け入れる。
メグもメアリーも、突然の訪問客にとっても嬉しそう。

ミス・ヴァリーは状況を掴めていない。

メグ： まあまあ！ おはようございます！

メアリー： おはようございます！

リンカーン： 誰だ誰だ誰だ誰だ！

ミス・ヴァリー： あ、みなさん本物、今見てた人たちだ……、えっと、おはようございます。

メアリー… しー、リンカーン。

間。

ミス・ヴァリー… あ、あの……、ドア開いててなんだか入ってきちゃったみたいなんです……。

メグ… もちろんどうぞぞ！ 我が家はいつだって誰だってウエルカムなんですよ！

メアリー、リンカーン… ウェルカム！

リンカーン… でも誰なんだよ！

ミス・ヴァリー… あ、それはそれは……。

間。

メアリー… (ワクワクしながら) あの、えっと、(お名前は?)

メグ… あら、私ったら。初めまして、私、メグ・マウンテンポイントです。ハウユー？

ミス・ヴァリー… あ、アィムファイン。エンジュー？ (間) あごめんなさい。質問返ししちゃった。ついナリで。

メグ… あはは！ あなたったらユニークね！ 私ユニークな人大好きよ！

メアリー… 私も！

リンカーン… 俺も！ でもあんた一体

ミス・ヴァリー… あの、私は、えっと……(ちょっと考えて) ミス・ヴァリー？ です……？ ん？ ミス？ 水？

メグ… ミスは、ミスかミセスか分からない時に使う敬称よ。

ミス・ヴァリー… お、なるほど。あ、初めまして、なのかな一応、えっと、ミセス・マウンテンポイント……

メグ… メグって呼んでちょうだいな。

ミス・ヴァリー… メグ？

メグ… イエス？

ミス・ヴァリー… いや呼びかけた訳では……

メアリー… 初めまして、ミス・ヴァリー。私はメアリー。

ミス・ヴァリー… 初めまして、メアリー。

メアリー… こっちはリンカーン。雑種犬です。

リンカーン… (カッコよく) 初めまして、雑種犬のミスター・リンカーンです。

ミス・ヴァリー… 初めまして、リンカーン、ハンサムな雑種なのね。(リンカーンに囁く) さっきのメアリーへのアイラヴ

ユー、私感動しちゃった。

リンカーン… っだよゆるよ照れっせでもサンキュー！

ミス・ヴァリー… (メグとメアリーに) 私、どうもついさっきお隣に越してきたみたいなのでご挨拶に伺っ……

メグ… (メアリーと賑やかに) まあ新しいお隣さん！

メアリー… (メグと賑やかに) 嬉しい！

メグ… (メアリーのセリフにかぶせながら) 一緒に社交ダンスに通いましょうよ！

メアリー… (メグのセリフにかぶせながら) 仲良くしてね！

メグ… (メアリーのセリフにかぶせながら) 一人暮らし？

メアリー… (メグのセリフにかぶせながら) 子供はいる？

メグ… (メアリーのセリフにかぶせながら) 好きな食べ物はない？

メアリー… (メグのセリフにかぶせながら) 遊びに行っていない？

メグ… (メアリーのセリフにかぶせながら) 今度ショッピング一緒に行きましょね！

リンカーン：（メグとメアリーのセリフと同時に）やったやった！ おもしろい子一緒？ ねえねえ、一緒に遊べるおもしろい

子一緒？ いやおもしろくなくてもいいや、一緒に遊べるなら！ 俺の秘密基地教えてやっせ！ やったやっ

た！ 嬉しいな！ おもしろい子やったやった、あっそぶぞおー！

ミス・ヴァリー：（少し引き気味ではあるが拒否はせずに）賑やかなご家族ですね。

メグ：それが取り柄なんですよ。

メアリー：みんなとってもおしゃべりなの！

メグ：そうだ、良いこと思いついた！ 今晚、サプライズバースデーパーティがあるの、良かったらいらして。

メアリー：本人の前で言ったらもつサプライズじゃないけどね！

メグ：あ、そっか！ 私ったら！

リンカーン：メグのおっちょこちゃんさん！

メグ、メアリー、リンカーンは和やかに大笑い。

メアリー：どう、いらして下さる？

メグ、メアリー、リンカーンは固唾を飲んでミス・ヴァリーの返事を待つ。

ミス・ヴァリー：……もちろん！

メグ、メアリー、リンカーンは歓声を上げる。

メアリー… 嬉しいありがとう最高のバースデーナイトになるわ！

メグ… 腕によりをかけちゃうエキサイティングね！

リンカーン… やった晚饭晚饭スペシャルディナー！

ミス・ヴァリー… そんなに喜んでいただけ、私も嬉しいです。

メアリー… あ！私本当にバイト行かなくちゃ！

リンカーン… 俺のお遅刻お嬢さん、送り届けてあげたいぜ！

メグ… ほら急いで急いで！ 行ってらっしゃい！

メアリー… 行ってきまーす！ ミス・ヴァリー、今夜ね！

リンカーン… ああ俺はお前にどこまでもついて行きたいよ！ バイバイハニーベイビー！

メアリー、慌ただしく出掛ける。

ミス・ヴァリー… あ、じゃあ私もこれで。

メグ… あら、お茶でもどうかと思ったのだけれど、またトゥナイトね。セブンピーエムよ。お待ちしているわ。

ミス・ヴァリー… お招きどうもありがとう、初対面なのに。

メグ… さっきも言ったでしょっつ、うちはいつでも誰でもウェルカムなのよ、賑やかなのどこやかのが大好きなんですから。

ミス・ヴァリー… このハッピーオーラがなんか、ちょっとすごいですね。

メグ… それが私たちのビッグな自慢なのよ！ どう、あなたも私たちのハッピーサイクル知りたい？

ミス・ヴァリー… あ、いやあ、えっと、じゃあ、とりあえずこれで。

メグ… あら、門までお見送りするわ。そうそう、私、社交ダンス習ってるのよ、これから一緒に行かない？

ミス・ヴァリー… いや今日はちょっとっていうかそれも随分突然のお誘いですね踊れるかな私…

二人、玄関から退場。リンカーンはソファで寝ている。

静寂。

ぼく、舞台中央にやって来る。

ぼく： (客席に向かって) みなさん、ここまで楽しんでますか？ 楽しくない訳がないですよ、こんなにハッピーな人たちを見ているのですから。こちらまでハッピーになってきます。それにハピネスが溢れているこの空間。(深呼吸して) 今、ぼくはもうハッピー過ぎて幸せな気分過ぎてお腹いっぱい過ぎて、ハピネスがぼくに溢れ過ぎています。ところで、既に『人が幸せに生きるための方法』について、たぐさんのヒントが隠れていましたが、みなさん気がつきましたか？ まさか、見落としてなんていないですよ？ では、今から、このヒントを最初から一緒に紐解いて

突然、ミッチが窓を開けて家の中を覗きながら、

ミッチ： (小声で) メグ？ ……メアリー？ 誰もいないよね？

ぼく： (素で非常に驚いて) あれ？ えとういうこと？ ミッチが帰宅？ こんな時間に？ とうなってんの？

ミッチが窓から家の中に入ってくる。

ミッチの帰宅に目を覚ましたリンカーンが、

リンカーン： (元氣いっぱい) おかえりー！ ミッチおかえりー！ ウェルカムホーム！ やったやった嬉しいな今日早いじゃん遊ぼうぜー

ミッチ： シー、シー、静かに。ただいま、リンカーン。二人とも出かけて

メグの声が玄関の外から聞こえる。
ぼく、慌ててパイプ椅子に戻る。

メグ： リンカーン、どうしたの？

ミッチ： ないっ！

慌ててソファの後ろに隠れるミッチ。

玄関からリビングルームに入ってくるメグ。

リンカーン： ミッチ、おいミッチなんだよ早速隠れんぼかよちよ待てよ。ウェイトウ！

メグ： どうしたのそんなに大騒ぎして？

ミッチを探すリンカーン。

メグ： まだボールなくしたの？ 私ね、もう出掛けなくちゃいけないのよ。あとで遊んであげなから、って聞いてる。
全く聞いていないリンカーン。

メグ： ノー、ユーアーントウ！（No, you aren't）オッケーよ。

と言って、自分の部屋へ行く。

リンカーン： おいミッチ、隠れるの上手過ぎじゃね？ においが分からないよ！ 無臭だよ！ 俺の鼻！ ひゃあ楽しい
〜！ミッチ、おいミッチ！ ひゃええ〜

興奮状態のリンカーン。

そこへ、社交ダンスに行く支度を整えたメグが戻ってくる。

メグ： まあまあ！ そとつエキサイティングなうね！ 私もエキサイティングして来るわ！ じゃあ、スィーヤ！

(see ya)

リンカーン： 行ってらっしゃいメグ！ おいミッチ、メグ出掛けっぞいいのかよ。メグ、ミッチ帰って来てっぞ。なんかもう色々楽しい！ ひゃーっほー

メグは外出する。

リンカーンはボールで一人遊びをしている。

一瞬の静寂。

ミッチがソロリと出てくる。

ミッチ： メグ行った？ 気づかれないよね？ 社交ダンスかな。

暖かい太陽の光が窓から燦々と入っている。

ミッチはソファにカバンとコートを置いて座る。途中でネクタイも外す。

ミッチ： ふう。(安堵する)今日は本当に良いお天気だ。家の中が太陽の光でいっぱい。これだけで幸せな気持ちになれるのは、幸せなことだ。うん、僕は幸せだ。幸せだ幸せだ僕は幸せだこのまま本当に幸せになれたらいいのだ。
おい太陽の光い、俺を幸せにしぐわ〜。

間。

ミッチ： うん返事はなし、と。

あーあー。今日どうしようかなあ。プレゼント買ってこいって言われてるけど、参ったなあ、買う金ないよ。うん、金はないけど、いやまあ僕は幸せなんだけど。はあ。メアリーは何が欲しいのかなあ。
誰も居ない我が家は静かだ。

玄関の外からリンカーンの声が聞こえる。

リンカーン： ちょ待てよ俺から逃げんなよハイハイマイポー(ル)！

と言って、ボールを追いかけながら部屋に入ってくる。

リンカーン： 捕まえたっ！ お前足早いなあ追いつかないかと思っ……う訳ないだろう！ 俺を誰だと思ってんだよなめ

んなよ。俺はこの街で一番足早いん

ミッチ！ ちょっとどこ行ってたんだよ探したんだぜ。

ミッチ： お前は楽しそうで良いなあ！

リンカーン： やめろよ照れっせ。褒められるの大好き！ なんだよ遊ぼうぜ早く投げて早く投げて！ っつーか早く投ぐげろよミッチ。はいっ！

と、ボールをミッチに渡すリンカーン。

ミッチ、窓からボールを投げる振りをする。

ボールが投げられたと思ったリンカーンが、

リンカーン： (窓から外を見て) いやっほーい！ いやいやいや、随分遠くまで投げたなあい！ お前俺を試してんだな、

はいはいはい、待ってるよ！ シツゴー！

と言って、ボールを探しに窓から外へ出て、姿が見えなくなる。ボールはミッチの手の中に。

ミッチ： ふう。

♪M3「失ったのでは無い」

ミッチ： わつと。プレゼントごうじょう。

ミッチ： 僕は無職 無い職業 職業無い よってお金もない

プレゼント買えない 愛する娘のバースデー プレゼント買えない

贈り物は気持ちが大それたという そんなこと分かってる

けれど愛する娘のバースデー 何か買ってあげたい

もし買えるなら何を買ってあげようか ギター アクセサリー やっぱりお金っ

あの子は何が欲しいのかな 彼氏 安定 やっぱりお金がいいっ

お金をあげて「好きなものを選びなさい」 言ってあげたい

お金が欲しいのは僕だ はっはっはっ 失業だ それを言うなら失業だ

職業失い 笑いも失う その上生きる方向見失う

いや違う 見失ったのでは無い

そう違う 見失ったわけでは無い

リンカーン、手ぶらでどっかへ帰ってへる。

努めて明るくするミッチ。

リンカーン： おいミッチ、怒らないでくれよな、ボールさ、見失っちゃったんだよ。

ミッチ： そうか。

リンカーン： 一生懸命探したんだ、あつちとかこつちとかそつちとか、でもだんだん何探してるか分かんなくなっちゃってさ、だからとりあえず戻ってきたよ。

ミッチ： そうか。

リンカーン： ごめん。

メアリー： あれ？ ん？ 着て行かなかったっけ？ これどっかに置いてあるの？

リンカーン： だから、ミッチがいるんだよいるいるミッチいる！ 今探してへるよちょっと待ってな！ ミッチー

ー

ミッチを探しにリビングルームを出るリンカーン。

メアリー： まいいや。あー疲れた。コーヒーでも飲もうかな。レッツハウアプレイクタイム！

リンカーンが戻ってきて、リビングルームの奥を指差す。

リンカーン： いたいたいたいたミッチいた！ ほらあそこ！

メアリー： どうしたのそんな大騒ぎして。

リンカーン： ミッチミッチミッチミッチ！

トポトポとミッチが部屋に入ってくる。でも元気を装っている。

ミッチ： おかえり、マイディアメアリー！

メアリー： パパ！どうしたの！ 会社は？ 風呂でも悪いの？ 忘れ物？

ミッチ： 悪くないよ、パパはいつだって元気百倍だよ！

メアリー： よかった、ああビックリした！ (気づく) あっ、わかった！ もしかして、あれ？ あれあれ？

リンカーン… なになになになに？

メアリー… ああ、私分かつちゃった？ もしかして？ これ、あれ？ あれでしょ？

リンカーン… だから何だよ教えてよ。

メアリー… しっっ。

と、メアリーはサプライズパーティのオープニング部分を実演して見せる。

メアリー… (小声で) ほら、来た来た、隠れて。

ミッチとリンカーン、言われるがままに隠れる。

メアリー… (小声で) ふふ、気付いてないね、

リンカーン… (小声で) えなになになになに。

メアリー… (小声で) ほら、しっっピークワイエット。

リンカーン… しっっミッチ！

メアリー… ユーシャラップ！

リンカーン… (じゃんぼん) はっ……。

メアリー… (小声で) せーのっ。(大声を出してるジエスチャーで。つまり、声は出さなくて口だけ動かしてる) サプライズ！
イス！

リンカーン… (その動きに合わせて) イズ！ あーあー！ サプライズパーティっっっっっ。えいっっっっっっっっ。

メアリー… 「愛娘のハッピーサプライズパーティの準備のために、会社を休んだ」 どうっ？ 当たりのでしょ？

ミッチ： (元氣ハツラツに) そうなんだよ！ なんて分かっちゃったのかなあ！ やっぱりさすがだなあメアリーは！
いやや参ったなあ！ ギヴアップだよ！

メアリー： イエスアイムライト！ 私正解！ どんなことしてくれるの？ 楽しみ！
リンカーン： 俺も！

ミッチ： 僕も！

メアリー： あれ、でもさ、それさ、私がいちゃダメなんじゃない？

ミッチ： そうなんだよ、だから出掛けてて欲しいんだよ。いいかな？

メアリー： いいともオフコース！ じゃあ、リンカーンの散歩行ってくる！

リンカーン： やったやったやったお散歩大好きラヴ！ メアリーラヴ！

玄関のドアが開く音。

ミッチ： (慌てて) あ、あ、あ、

リンカーン： メグだメグだ帰ってきたおっかえ……

メアリー： (リンカーンに) ユーシャラップ！ みんな、ちょうどいいからサプライズの練習しよ、リハーサルだよ！ 隠れて、早くー！

3人、慌てて散り散りにソファの後ろや食卓の下などに隠れる。

メグ、泣きながら部屋に入ってくる。

隠れている3人はその様子に気づくが、誰も声を掛けない。

♪M4「哀しいダンス」(タンゴ調)

メグ： 誰も私と踊ってくれない 一人で社交ダンスは踊れない

私も誰かと踊りたい いつも一人で練習してたら 誰よりも上手になっちゃった

ますます誰も私と踊ってくれない この際男性側も上手になってしまおうか

そしたら一人二役できるもの

誰も私と踊ってくれない 一人で社交ダンスは踊れない

いや踊れるのだけれど 踊れない わかるかしら 踊れないのよ

ワルツに シルバに サンバ ルンバ スクエアルンバ

どれも素敵なペアダンス 華麗なペアダンス

だけれど誰も私と踊ってくれない

メグ： 哀しい(泣く)。

メアリー、姿を現す。

メアリー： ママ……。ママ泣かないで。それにこれはルンバじゃなくてタンゴだよ。

メグ： (泣き止んで努めて明るく) あらメアリー! どうしたの? バイトは? 具合も悪いの? 忘れ物? 遅刻したから帰されたんでしょ??

メアリー： 質問が多い。私なんかのことばかり、どうしたの? サークルで何があったの? どうして誰も踊ってくれないの?

どうして泣いてるの？

メグ： 質問が多い、トゥメニークエスチョンズよ。もう、やだやだ、何言ってるの、泣いてなんかいないわ、ママは人気者なのよ、ホピユラーなんだから、誰も踊ってくれない訳ないじゃない、何言ってるの、だって社交ダンスは一人では踊れないのよ。

と、言ってる途中から泣き出すメグ。

イライラし始めるほく。パイプ椅子から立ち上がり、壁に寄りかかって成り行きを見つめる。

メアリー： うん、それは今聞いたよ。歌ってたじゃない。

メグ： ええそうね。聞いてたのね。

リンカーン： メグ、泣くなよ。俺どうして良いかわかんないよ。

と言って、メグの足元に座るリンカーン。

メアリー： ママ……。あれ、ちょっと、パパ何やってるの？

メグ： え？ ミッチ？

メアリー： パパー！

ミッチがおおおと叫び出す。

ミッチ： (努めて明るく) ハーイ！

メアリー… パパ、この状況で「ハイー！」はないで

メグ… ミッチどうしたの？ 仕事は？ 具合でも悪いの？ 忘れ物？ こんな風聞で家で何してるの？

メアリー… ママったら忘れたの？ 今日は、私の「」誰をみすか「」サプラインズー「」でしよ。

メグ… アイノウ！

メアリー… 二人はその練習をするんでしよ、何言ってるのよ、もつもつ。

メグ… 練習？ 私たち練習するの？

ミッチ… え、ああ、うん、まあ、ねえ。練習……する。

メグ… え練習？ ……しよつか？

ミッチ… イエス！

メアリー… やった！ じゃあ私部屋に行ってるね、チラ見しに來たりしないから、安心して練習しててね！ あとは、パパに任せるよ。リンカーン、カモン。

リンカーン… オーイエスマイラブ！

メアリーとリンカーン、部屋を出る。

メグ… ねえ。サプライズパーティの練習ってなに？

ミッチ… (努めて明るく)それは、こう、どに隠れるかな、どいつらう話の流わでか、そいつら

メグ… ふうん。あ、それより、プレゼントどうした？ 何買ったの？

ミッチ… ああ、それは、いや、会社の帰りに買おうかなあって

メグ… そうよ！ 会社どうしたの？

ミッチ… あ、えと、今日は、あの、今日は……休み？

メグ： え今の質問？ えナウのクエスチョン？ えなに？

ミッチ： え？ いや、あの、えとだから、今日は、

メグ： うん。

ミッチ： うん、だから、あの、さあ、えっと、

メグ： うん。え、どうしたの？ ミッチ。

ミッチ： いや、どうもしないんだけど、まあ、

壁際に立っていたぼくがおもむろに話しかける。

ぼく： (イライラしながら) なんなの、歯切れ悪いなあ。

間。

ぼくの突然の登場に、メグとミッチは非常に驚く。

メグ： (動揺しながら、でも失礼のないように) えっとおあなたはあどちら……

ぼく： (問い詰めて) どうしたの、会社。

メグ： いや、あのおその前にいあなたはあ……

ぼく： ねえ、会社。

ミッチ： あ……の……辞……めました。

ぼく、メグ： えっ！

メグ： えっ！

ぼく： えー……

メグ： や、辞め

ぼく： 辞めだっ！ えどうして？ そんなこと出来んの？ え辞める？ どうして？

ミッチ： いや、えっと、辞めますって言った。

ぼく： いやいやいや。え？ 辞めますって？ 言っ？ えそれで辞められる？ っ？ どうしてだよ。えええー

ミッチ： はい、言葉通りです。辞められました。

ぼく： ええ？ いやちょっと意味不明なんだよね。どうなってんだ？ えそんな勝手なこと

メグ： あ、お話中ソーリーごめんなさい。(感じ良く)初めまして、私、メグ・マウンテンボ

ぼく： 知ってるよ。

メグ： ソーリー？

ぼく： だから知って

メアリー急いでリビングルームに入ってくる。

メアリー： どうしたの、大声出して？ アーユオーライ？

ぼく： (歓喜して)メアリー！ 本物だー！ わあ……。想像してた以上にピンクのTシャツが似合っなあ。ショートカッ

トも似合っし、こんなにもかも似合う完璧な女の子いる？ いないよー。可愛いなあ。ハッピーだなあ。

メアリー： ソーリー？

ぼく： (カッコ良く)あ、じゃあ、ぼくはいいよ。お邪魔しました。またあつよ。

と、ぼくは玄関から帰る。

メアリー：今の誰？ お客さん？ 失礼な奴。

ミッチ：いや、それが誰だかわからないんだよ。

メアリー：どういふことか？

メグ：やだ、あなたの知り合いかと思って自己紹介しちゃったわ。知らない人？

ミッチ：うん、初対面。

メグ：でも、私のこと知ってるって言ってたわよ。

メアリー：私の名前も知ってた！

3人に気づかれないようにぼくが脚立を持ってコロコロと玄関からリビングルームに戻ってきて、見つからないようにキャブリー（もしくは棚など背の高い場所）にあがり、そこから再びシーンを観る。

メアリー：えー怖い。不審者？ 気持ち悪い。

ミッチ：でも、なんか、どこかで会ったことがあるような気がしないでもないような。

メグ：それなんか分かる、他人のような気がしないというか。

メアリー：益々気持ち悪いYOー

ミッチ：そうなんだYOー

メグ：そうなのよ……、ちょっと待ってミッチ、さっきの話本当なの？

ミッチ：（メアリーを気にしている）あ、まあ、そうだね、そうとも言うつよYOね……うん。本当だよ。

メグ：ちょっと、何があったの。

メアリー：どうしたの？

ミッチ： いや、あの、あ、まだ練習中だからメアリーは部屋に

メグ： ミッチ！

ミッチ： はい！

メアリー： ねえ！ どうしたのって？二人とも変よ。

メグ： ミッチが会社を辞めたの。

メアリー： ええっ！ どういうこと、パパ何があったの？

ぼく： 「♪誰も僕と喋ってくれない 一人で会社仕事は出来ない（*ギャラリーからのぼくの声は3人には聞こえない。）」

ミッチ： いや、あの……なんとなく。

ぼく： え？

メグ： エクスキューズミー？

ミッチ： だから、えっと、なんとなく

メグ： 聞こえてました。

ミッチ： あうん。

間。

ぼく： なんとなく？

メアリー： なんとなく、会社辞めたの？ パパ。なんとなく？

ミッチ： まあ、うん。

ぼく： まあ、うん？

メグ： 「まあ、うん」じゃないでしょう？ 「これから私たちがどうやって生きていくの？」 大変なのはあなただけじゃないの

よ。

ミッチ： 分かっているよそんなじじ。

ぼく： はい？

メグ： はい？

メアリー： ママ落ち着いて。

ぼく： ぼくは落っついてるよ。

メグ： 私も落ち着いてます。私だって大変なんだから。

二人のやり取りに呆れてソファに座るメアリー。

ミッチ： 社交ダンスで誰も一緒に踊ってくれないっていう、アシのことでしょ？

メグ： アシ？

ミッチ： うん、さっき歌ってるの聞いてたよ。

ぼく： ぼくも聞いてたよ、なかなか良かったよ。

メグ： 聞いてたのに、声かけなかったの？

ぼく： だって隠れてたし。

メグ： 隠れて聞いてた訳？ 愛する妻が泣きながら歌うのを。どんな気持ちで聞いてた訳？

ぼく： どんな

ミッチ： どんな気持ちって。そりゃあ、可哀想だなあって。随分踊るなあって。激しく踊るなあって。

メアリー： パパ。

メグ： 可哀想だなんて、支える家族がいるのになんとなく仕事辞めた人に言われたくない。

ミッチ： さっきからさ、何があったかは聞かないで、自分たちの生活のことばかり言うんだね。

メグ： そりゃそうでしょう、だって私たち生きていかなくちゃいけないもの、それに、だって、なんとなく辞めたって言う人にこれ以上何を聞けば良いんですか。

メアリー： ママ。

ぼく： そうだそうだ自分勝手なことじゃがって。

ミッチ： それは。だって、本当の理由じゃないかもしれないだろ。

ぼく： はいい？

ミッチ： いや、だって、もしかしたら、もっとこう深くて複雑な理由が

メアリー： パパ無理するの止めたら。

メグ： シャラップメアリー。

ぼく： おい！

メアリー： ママー！

メグ： どっちの味方なの？

メアリー： どっちも味方だよ。

ぼく： ああ本当に優しくて良い子だなあメアリー。可愛いし。ショートカット似合うし。ハッピー。

ミッチ： メグ、メアリーにあたるのはやめなさい。

メグ： ちょっと、良い父親ぶるのやめてよ。

ミッチ： だって良い父親でいたいもん。

ぼく： 分かる。俺もメアリーに嫌われたくない。

メグ： ちょっと待って、これじゃあ私が悪いみたいじゃない。

メアリー： そんなこと誰も言っていないよ。まずは、なんとなく仕事辞めちゃったパパに事情を聞こうよ、だってなんとなく

っし。なにっ？

ほく： なじっ。

ミッチ： なんとなくは、なんとなくだよ、分かるでしょう。

メグ： 分からないから言ってるんでしょ、一体なんなのよなんとなくて。

メアリー： ねえ。

ミッチ： だから、なんとなくはなんとなくだよ、なんとなくの意味も分からないのか、なんとなくって言うのは、

メグ： 意味は分かるわよ、

メアリー： ねえ。

ほく： どんな意味？

メグ： なんとなくって言うのは、なんとなくよ！

ミッチ： そうなんだよ、なんとなくなんだよ！

ほく： どういう意味だよ！

メアリー： ねえってば。

メグ： だからなんとなくって言うのは、

ほく： なんとなくってだからなん

ミッチ： だからなんなんだよ、なんとなくって

メアリー： 二人ともシャッターアップ！ (shut the fuck up)

静寂。

リンカーンが大急ぎで走ってリビングルームへ入ってくる。

リンカーン： どうしたメアリー！

「MOMMY」

メアリー： いちまうしんみんぐいし。まびで黙ってくれる？。フーカウザイ。

メグ： (努めて明るく)ん？。どうしたのメアリーそんなフォワード！

ミッチ： (努めて明るく)そうだよ、どうしたんだ？そのフォワード！

リンカーン： えなになに、メアリーがフォワード！

ぼく： メアリーがフォワード・・・

メアリー： 別に言うよね、ファックくらい。ファックユー。

メアリー： 私もう疲れた いつもハッピーで いつも笑顔で

いつも良い子でいるの もう疲れた

だってバカバカしい っていうかバカみたい

そんな人生ある訳ないじゃん あると思ってるの？ バカなの？

ないよそんな人生 いないよそんな人

なんでいつもそんなにハッピーなの？ ハッピー演じるの？

みんな分かってんじゃない 演じてるだけって 嘘だって

気づいてないの？ バカなの？

私もう疲れた いつもハッピーなの いつも笑顔なの

いつも良い子でいるの もう疲れた

ムカついたり 怒ったり 不機嫌になったり

ひねくれたり ぶてくされたり したい 普通に

パパはなんとなく仕事を辞め ママは一緒に踊ってくれる人がいないと泣く

なにこれ アンハッピーじゃん なんて気づかないふりするの

なにそれ アンハッピーじゃん なんて見て見ぬふりするの

なんでそんなにハッピーがいいの なんでそんなにくだわるの なにがそんなにうるさ

みんな本当は分かっているんでしょ この虚しさ この倦み

もういいじゃん やめようよ 私もう疲れた

メアリー： ファックユー。

間。

リンカーンがM2のフリーズをアカペラで歌ってメアリーを慰める。

リンカーン： ヲハイハイ マイガー

メアリー： シャラップ。

チャイムが鳴る。

誰も動かない。ザラザラした空気が。

もう一度、チャイムの音。

メアリー… え誰か出ねば？

メグ… そういうなら自分が出れば？

メアリー… はあ？

ほく… おお、そういう感じ？

ミス・ヴァリー、ハッピーに入ってくる。

ミス・ヴァリー… サプライズ！

間。

ミス・ヴァリー… (一段と大きな声で) サアプライズ！(間)

あらやだどうしたの？ 時間間違えた？ 7時でしょ、セブンピーエムって？ 違った？ ねえ、メグ？

メグ… イエス？

ミッチ… こちらはどちら様？

ミス・ヴァリー… あら旦那様？

ミッチ… ええ。

メアリー… 無職のね。

ミス・ヴァリー… むしょ

間。

ミッチ： あ、それで、あなたはどなた様で？

ミス・ヴァリー： 私、どうも今朝お隣に引っ越して来たみたいなんですよ、ミス・ヴァリーです。

ミッチ： はあ、僕は、ミッチです。ナイスチューミーチュー。

ミス・ヴァリー： 初めまして。

ミッチ： みたいて言うのはどういうことですか？ だってご自分のことですよね？

ミス・ヴァリー： そうなんですよ、なんだか色々よく分からないんですよねえ、なんでここに居るのか、とか。

メアリー： どういうこと？

ミス・ヴァリー： あ、朝から思ってたんですけど、なんで英語なんですか？ いやまあ英語っていうか、片言？

ミッチ： はい？

メアリー： だってここアメリカじゃん。

ミス・ヴァリー： はい？

メグ： (努めて明るく) そうよ、相変わらずユニークな人ね！ ファニー！

メアリー： アメリカなんだから、英語じゃん。

ミッチ： そうですよ、ご自分のお名前だって、ミス・ヴァリーって。英語名じゃないですか。あれ、もしかしてこれは英語名ではないんですか？

ミス・ヴァリー： じゃあどこですか？

メグ： はい？

ミス・ヴァリー： だから、ここはどこですか？

メアリー： だから、アメリカだって言ってるじゃん。人の話聞いてんの？

リンカーン… メアリーマイラヴ……。

ミス・ヴァリー… アメリカの、どこ？

メアリー… アメリカのって、いやいや、アメリカって言ったらアメリカでしょ。

ミス・ヴァリー… うんアメリカは分かった。じゃあ、アメリカの、どこ？ ニューヨーク？ ニューオリンズ？ ニューア

ムステルダム？

メアリー… なにその質問！ ニューニュー言ってる気持ち悪い

メグ… あなた本当は誰なんですか？

ミス・ヴァリー… 気持ち悪い！ 私が？ ちょっと待ってよ、気持ち悪いのは

ぼく、ギャラリーから話し掛ける。

ぼく… ニューアムステルダムは、ニューヨークっていう名前になる前の、ニューヨークの名前だよ。

ぼく、ギャラリーから降りてくる。
間。

ぼく以外の人たち… (口々に) え誰誰誰誰？ あの人誰？

ミッチ… あいつさっきの野郎だな。

メグ… そうよさっきの野郎よ。

ミス・ヴァリー… さっきの野郎？

メアリー… 私たちのこと知ってる気持ち悪い野郎。

リンカーン… なんだこの変態野郎！

ぼく… 変態ではない。

リンカーン… じゃあ変質者野郎！

ぼく… 変質者でも

ミッチ… 変質者と野郎は者と野郎が同じことを指しているのではないか？

メグ… でも野郎って人を罵る時に使うんじゃない？ 「馬鹿野郎！」とか「クソ野郎！」とか「生ける屍野郎！」とか。

ミス・ヴァリー… なるほどねえ。確かに。じゃあ合ってるんじゃないの、変質者野郎って。

メアリー… 確かに。ママすごいじゃん。

メグ… やだ今あなたに褒められたら私泣いちゃう。

メアリー… まだ泣くの。

メグ… 泣きません。

ミッチ… しっかりしなさい。

メグ… はい。

ぼく… もう良い？

メグ… はい。

ミッチ… しっ。

ぼく… あのさ、なんでこんななっちゃった訳？

メグ… はい？

ぼく… ぼく達いつだってハッピーだったじゃん。それで良かったじゃん。なんでこうなっちゃった訳？

メグ… えっとおあなたはあ……

ぼく… なんでハッピー壊すんだよ。笑顔で良いじゃん。笑顔ステキじゃん。特にメアリー。

メアリー： え？

ミス・ヴァリー： え？

リンカーン： おい！

ミッチ： そちら様はどちら様？

ぼく： えなに、なにが不満？ はいミッチ。

ミッチ： いや、えっと、あの、僕は特に不満はな

ぼく： なんとなく仕事辞めたのに？

メグ： そうよ、なんとなく仕事辞める人いる？

ぼく： はいじゃあメグ。私だってなんとなく社交ダンス辞めたいのに？

メグ： いえ、私はそんなことは申しておりません。

ぼく： じゃあ何？ なんで泣いて帰ってくるの、いじめられっ子じゃあるまいし。

メグ： えっ、あっ、

メアリー： ちよっと。あんた。どこのどなた様だか知らないけど。ママのこゝろいじめろの止めてくれ。

ぼく： メアリー♡

ミス・ヴァリー： (独り言)どっかで見たことあるんだよなあ。

メアリー： 気安く呼ばないでよ。私はあんたみたいなクス野郎知らない。

リンカーン： いやっ！ 良く言ったメアリー！

ぼく： 今なんて？

リンカーン： いやっ！ 良く言ったメアリー！

ぼく： お前じゃない。

リンカーン： ん？ 俺じゃない？ 俺の前に喋ったのって誰だっけ？ お前じゃね？

ミス・ヴァリー… (独り言)どこで見たんだっけなあ。

メアリー… 私はあるみたいなのクス野郎知らないって言ったんだよ。

ぼく… メアリーがそんな口利くとは思わなかったなあ。え、ほんと、なんでなんで？ 今までうまくいったじゃん。なん
でこうなの？ 何があった？ えいつからだよ。

メアリー… 私は気づいた時からずっと思ってた、ずっと思ってたよ、私たちがいつもこんな「」してらんだろ
うって。ちょー疲れるって。ちょーキモいって。

ぼく… キモ

ミッチ… 分かる。僕が会社辞めたのもそんな感じだもん。

メグ… そんな感じって。

ミッチ… だって、ほら、なんとなくだから。

メグ… なるほど。

ぼく… 納得すんのかよ。えーこんなにバカにした覚えないんだけどなあ！

メアリー… えどういこと？

リンカーン… 大体、誰なんだよ、お前このクス野郎。

ぼく… まだ分かんないの？ 本当にバカなんだなあ。

ミッチ… さっきから聞いて

メグ… さっきから聞いてれば失礼なことばかり

ミス・ヴァリー… 分かった！ あなたさっき発表してた人でしょ！ 今日の、『HEADカンフェレンス』の舞台上で。

間。

ほくとミス・ヴァリー以外の人たち： (口々に) え何何何何? どういふこと?

ミッチ： 発表ってなに?

メグ： 舞台ってなに?

メアリー： ミス・ヴァリーだれ?

リンカーン： こいつも変態野郎か?

ミス・ヴァリー： ちょっと待って。

リンカーン： なんだよ、どっちかって言つと変質者野郎か?

ミス・ヴァリー： どっちでもないんだけど。

リンカーン： どっちでも良いってことだな。

ミッチ： もう何が起きているのかサッパリ分かん。

メグ： 今日はなんて日なのかしら、ワタチー (what a day) !

ミス・ヴァリー： ほら英語。

メアリー： だから、それはここがアメリカだからだって……。ここアメリカだよな? アメリカの、どこ? 誰か知ってる?

(ミッチに尋ねて) 無職の人?

ミッチ： え?

メグ： ミッチ!

ミッチ： 知らないなんて言っていないよ。

メグ： 違うわよ、なんで無職の人で反応してるのよ。

ミッチ： だって。

メアリー： じゃあどう?

ミッチ： え?

メアリー… 知らないの？ 嘘でしょ？どこなの？ 私たちどこにいるの？
ミス・ヴァリー… (ミス・テリアスに) 多分。ここはどこでもない。

間。

ミス・ヴァリー以外の人たち… (口々に) えいはいはいはいや？ 今のなに？

ぼく… いや分かんない。

メグ… なんかカッコつけてたよね？

ミッチ… そうそう、なんだか芝居掛かってたっていうか。

メアリー… 分かるわかる、なんだか知ったかぶったかだったかだったよね。

ぼく… え？

メアリー… (可愛く) え？

リンカーン、ぼく… かわいい…♡

リンカーン… おいお前、俺のメアリーに

ぼく… なんだよたっかが犬のくせに。

リンカーン… あー！あー！ それ、それは言っちゃいけないやっだろ、俺今すんげえ傷ついたブロークンハート。お前ひで
い野郎。

ミス・ヴァリー… ねえ気づいた？ リンカーンが私たちと普通に喋ってる。

メアリー… 本当だ！ リンカーン喋れるようになったんだね！

メグ… ずっと一緒に生活していると会話できるようになって言っものねえ。

リンカーン… 俺は前から会話してたんだよ！ でもやっと通じ合えて嬉しいぜ！

ミッチ：良かったな、リンカーン。

メアリー：私も嬉しい！

リンカーン：メアリーラヴ！

ぼく以外、みんな楽しそう。

ぼく：そう！それでいいじゃん。これでいいじゃん。いつもハッピー、みんなハッピー。オールハッピー。丸。

間。

メアリー：えーやだ。

ぼく：今なんて？

メアリー：だから、やだって言ったんだよ、聞こえなかった？

リンカーン：聞こえなかったのかよ、耳遠い野郎。

ぼく：聞こえてたよ。メアリー、なんで、いやなの？

メアリー：えだって変じゃん。いつもハッピーなんて。そんなわけないじゃん。気持ち悪い。

ぼく：きせ

メアリー：それに、私自分で決めたい、ハッピーでいるかどうか。いたいかどうか。

ミッチ：僕も。

ぼく：待って待って。ハッピーでいたくないなんて選択肢ある？

メグ：どっしどっし。

ぼく： ハッピーじゃなくても良いなんて、頭おかしいでしょって言ったの。話聞いてろよ。

ミッチ： おい、君、ハッピー依存野郎、僕のメグになんてことを言っんだ。

ぼく： だってさ、サークルでいじめられたんでしょ、泣いてたじゃん。あんたは、どうして良いか分からなくて黙って見過ごしてたじゃん。見過ごしてたっていうか、黙って歌聞いてたじゃん、聞いてたっていうか、見てたじゃん、ダンス、隠れて。え、ヤじゃんそんなの、楽しくないじゃん。楽しくないじゃん、聞いてたじゃん、違っ？ えなんでなんで？ なんで俺が言ってること分かんないの？ えやっぱバカなの？ やばー。

ミス・ヴァリー： ちょっと。あなた言葉に気がつけたら？

ぼく： はい？

ミス・ヴァリー： あなたお名前なんて言っの？

リンカーン： この名無し野郎。

ぼく： 佐藤ですけど。

メグ： 結構普通の名前よね、佐藤って。

ミッチ： ジャパンで一番多い苗字だからね、佐藤って。

メグ： へえ。

ミッチ： アメリカでいうところの、スミス？

メグ： スミス佐藤？

リンカーン： ダッセーお前ダッセ。スミス佐藤ダッセ野郎。俺なんてミスター・リンカーンだぜ。スペシャルなネームなんだけ。

メアリー： でもここアメリカなんだよね？ ってことは観光客？ このスミス佐藤観光客スミス佐藤野郎？

ミッチ： ねえ、客と野郎は同じことを

ぼく： 佐藤佐藤連呼すんな。

ミス・ヴァリー： あなたはなんでそんなにハッピーにこだわるの、スミス佐藤さん。

ぼく： いやだから(連呼すんな)。

(気を取り直して)ごめんごめんごめん、ハッピーじゃなくても良いなんて人いますか、ってさっきから言ってるの、誰かぼくの話聞いてよ。

ミス・ヴァリー： 聞いてる、だから質問してるとして、それはなんでですか。人の話聞いてないのはあなたでしょう。

ぼく： いやいやだから、ハッピーがいいんだよ。ハッピーじゃなきゃダメなの。生きていくにはハッピーしかないの。だからハッピーなファミリーが必要なんだって話でしょう？

メアリー： 何の話？

ぼく： そのブゼンだったのにさ、なんでわかんないの、自分たちのことじゃん。説明しなくちゃわかんない？ えじゃあなに、アンハッピーなファミリーでも同じように生きていけるってこと？

メアリー： え何の話？

ぼく： そんなわけないじゃん。いや、アンハッピーなファミリーを持ってたとしても生きてはいけると思うよ、でもそれじゃ全然ダメなんだよ、だって役に立たないじゃん、わかってないなあ。そのことを教えてに來たんでしょ、ハッピーなファミリーを持つことの効果について。

メアリー： えだから何の話？

ぼく： それをこちゃこちゃ

ミス・ヴァリー： スミス佐藤さんにはハッピーかアンハッピーかしかないみたいだね、それこそアンハッピーだよ。それに正直言っただけその二つしかないっていう考え方幼稚だよ。

ミッチ、メグ、メアリー、リンカーン： (ロンロンと) おお〜。

リンカーン： ミス・ヴァリーすげえ。

メグ： 言っただけねえ。

ミッチ： 本当にどなたなの？

メアリー： だから新しいお隣さんだつてば。

ミッチ： でも、引越してきたみたい、って。自分で曖昧なの変じゃない？

メアリー： 確かに。

ミッチ： 大体お隣さんって、どっちの隣？

メグ： 確かに。うちにお隣ってあったっけ？

メアリー： 確かに。(何かに気づいて息を飲む) っていうか、うちの外がどうなってるか私知らない。

ミス・ヴァリー： 何黙ってるの、言い返せないの？

ミッチ、メグ、メアリー、リンカーン： (コソコソと) おお~~~~。

ミッチ： いや本当にこの方どなた？

♪M6「スマイレストでステケストはハピエスト」

ぼく： だってさ、話噛み合っていないんだからぼくが何言っても無駄でしょ？ 誰もぼくの話聞いてないじゃん。どうやった
らこんな勝手になるんだよ。

ミス・ヴァリー： あのね、

ミス・ヴァリー： あなたはハッピーが良いと言う 確かにハッピーは良いものね

私もハッピーが大好きよ ハッピーでいれたら幸せ

太陽の暖かなサンライト 穏やかな アフターヌーン

たわいもない話で盛り上がる ティータイム

愛する人と夜空の散歩 ムーンライト

ハッピーだけでいられたら どれだけハッピー ハピアー ハピエスト
いつも笑顔でいられたらどんなにステキなことでしょう

スマイル スマイラー スマイレスト ステキ ステカー ステケスト
でもハッピーだけの人生なんて 有り得ない そんなのない
笑顔だけの毎日なんて 物足りない

ハッピーもあれば アンハッピーもある

山もあれば谷もある 山といえば川と答える

それが毎日 それが現実 それが幸せ

私はそう思う あなたはどう思う？

いつも笑顔でいること いつも元気でいること

いつもハッピーのフリをすること

それはハッピーとは言わないわ

ハッピーとアンハッピーの間に存在する

ハッピーでもアンハッピーでもない 沢山の想い

多分 それが本当のハッピーというのだろう

それがハピネス それが幸せ それが人生

曲中に、ミッチ、メグ、メアリー、リンカーン、家具を片付けオープニングと同じ素舞台に戻し、玄関から
退場。

ぼく： はいはい、喋ったもんね、ちょっとだけ。ぼくの発表の時に遅れてくるとか、ねえなってイラッとしたんだよ。(何かに気づく) あっ、えっそっすいっすいっす。

ミス・ヴァリー： なにかわかりました？

ぼく： ああそれで印象に残っちゃったのか、だから出て来たってこと？でもそんなことあんの？そっか、あなたあの遅れ客か。

ミス・ヴァリー： えと・・・どういことですか？

ぼく： えそっだよな？あなた、ただのお客さんだよな、今日のHEADカンフェレンス見に来ただけだよな？

ミス・ヴァリー： そっすそっすです、最近このHEADのネットに動画がたくさんアップされてて地味に流行ってるじゃないですか、で、動画見て、面白そっだなぁって思ったら、ちょっと日暮里で開催するっていうから

ぼく： じゃあさ、分かるよね？何やらかしてんの？なに偉そっつにぼくのプレゼン邪魔してんだよ。

ミス・ヴァリー： いや別に偉そっつには

ぼく： 偉そっつだよな？説教とかしてさ。

ミス・ヴァリー： 説教？

ぼく： たった今歌ってたじゃん、忘れたの？ぶち壊したよ。ぼくの、「人が幸せに生きるための方法」についてのアイデア、どうしてくねんの？

ミス・ヴァリー： あ、えっっ

ぼく： これ広めてさ、このやり方でさ、ハッピーに生きてける人増えるはずだったんだよ。みんな明るくて元気で愉快でさ、笑顔で楽しくてイヤなことが一つもない。えいっじゃん、それすげえいいじゃん。みんないつもニコニコハッピー。

ミス・ヴァリー： あ、なるほど。

ぼく： はい？

ミス・ヴァリー： いや、なんでもないです。

ぼく： なに？なにか言いたいことあるの？

ミス・ヴァリー： いやあ、そんな言い方されてもねえ……。

ぼく： なんだよ。

ミス・ヴァリー： いえ。

ぼく： あのさ。帰ってくねる？

ミス・ヴァリー： はい？

ぼく： うん、帰ってくれる？って言ったんだけど。

ミス・ヴァリー： あでも……えっと……

ミス・ヴァリー、どうして良いか分からず、立ったままである。

ぼく： すいませーん。このお客さん帰るそうなので、電気つけてもらって

ミス・ヴァリー： あ、わかりました帰ります。

と言って、ミス・ヴァリーは、客席に置きっ放しの荷物を取って、劇場のドアから急いで外へ去る。

静寂。

深いため息をつくぼく。

ぼく： あーあ。なんだこれ。

ぼくが舞台を見渡すと、セットもなく、自分一人だけがボツンと立っているのがわかる。

ぼく： あーあ。一人になっちゃった。がらーんっつって。ぼーんっつって。えちよっと、まちでみんななくなったの？
今までずっと一緒だったのに？ぼくを置いて行ったわけ？っつーか、どこに行ったんだよ、行けるよこあんの？

なんで分かんないんだろう。良いアイデアなのに。せっかくのチャンスだったのに。ハッピーな人増やすチャンスだったのに。ぼくはこれで毎日幸せなのに。幸せに生きられてるのに。みんなのおかげなのに。ぼくのハッピーなファミリーのおかげなのに。何が間違ってるのか全然分かんないんだけど。何がイヤなのか何が不満なのかまじで全然わかんねえ。疲れたとかなんの？

ここはアメリカのどこ？とか騒いじゃってさ、アメリカじゃないっつーの。そんな片言の英語あるかよ。下手くそか。ってみんなの英語が下手なのはぼくのせいかな。ひどいよなあ僕の英語力。ウケる。
っーかなんなだよ。

メアリーが玄関から入ってくる。

他の人々も、順番に静かにリビングルームに戻ってくる。

メアリー： スミス佐藤さん。

ぼく： メアリー。戻ってきてくれたんだね。やっぱり優しいなあ。

メアリー： 私さ、自分がハッピーでいたいのかいたくないのかわからなくなっちゃったんだよね。ずっと ハッピーでいな
くちゃいけなかったから、ハッピーでいさせられたから、だんだん自分がハッピーなのかどうか、わからなくな
っちゃった。

ほく： そんなの屁理屈だ。

リンカーン： お前な、スミス佐藤。メアリーに文句つけんな。メアリーの可愛さと思いやりと心遣いに感謝しろ。スミス佐

藤このスミス野郎。

ほく： うん、いい加減にさ、そのスミス要らないんだけど？

メグ： スミスさん、あなたの気持ちは良くわかるわ。ハッピーがいいのよね、ハッピーはいいものね。でもそれは強制することでも、強要することでもないんじゃないっそう願いたい、それぞれが努力するんだと思うのよ。

ミッチ： そしてハッピーであるとは状態のこと、そう感じることで、手に入れようとするにはあまりにも曖昧なものなんだよ、スミスくん。

ほく： え難しい。

ミッチ： うんそうだね。難しかったね。

ほく： だってさ、ハッピーなファミリーがいるってことで、ほくはハッピーでいられる。それを発見した。だからみんなにはハッピーでいてもらわなくちゃいけない。それを望んで何がいけないの？ハッピーで居続けられることがどれだけ凄いか分かってる？

ミス・ヴァリーが先ほど出て行った劇場の扉から戻ってくる。

舞台に向かって歩きながら、

ミス・ヴァリー： 望むのは良いけれど、

ほく： あんた戻って来たのかよ。今度は果の密っ

ミス・ヴァリー： 笑顔でいろいろか元気でいろいろか良い子でいろいろか感じ良〜いろいろか機嫌良〜いろいろか自慢の娘であれとか
ほく： だってほくの自慢だもん、メアリー。

リンカーン… 俺も。

ぼく… 黙っとけよ、お前ただの犬だろ。

リンカーン… あー！またそれ言う、言うなよスミス。

ミス・ヴァリー… あなたが作ったんでしょう、スミス佐藤さん。

リンカーン… お前俺を作ったの？

メアリー… どういうこと？

メグ… 作れるの？犬を？

リンカーン… すげえじゃんスミス！

ミッチ… 本当にどちら様なんだ、ミス・ヴァリーは！

ぼく、突然歌う。

ぼく… そつだよ ぼくが作ったんだ

メグ… 歌ったわ！

ミッチ… スミスくんが歌った。

メアリー… スミスさんが歌った。

リンカーン… スミスが歌った

ぼく… みんな 僕が作ったんだ

メグ： なかなか良い声ね。

メアリー： よく見るとイケメンだしね。

ミッチ： ああいうのがタイプなのか？

リンカーン： おいやめろ。

ミス・ウアリー： どうして？

ほく： 答えたくない

ミス・ウアリー： どうして みんなを作ったの？

メアリー： どうして？ みんなを作ったって どうして？

ほく： ……

メアリー： 教えて スミスさん

答えて スミス佐藤さん

ほく： (大きなため息) ほくが、作ったんだ。この、マウンテンポイントのファミリーを。

リンカーン： おいお前どういう

メアリー： ユーシャッドファックアップー今大事な話してるの。

リンカーン： (じょんぼん)はい。。。。

メアリー： それで？

ぼく： それで

ハッピーなファミリーが必要だった

いつも自分と一緒にいる

笑顔が絶えなくて 明るくて 賑やかな ハッピーな ファミリー

どんなに疲れても どんなに辛くても どんなに傷ついてても

いつでも会いに行ける 見に行ける

その瞬間

覗ける 家族

ミス・ヴァリー： 偽物の、家族。

メアリー： フェイクなファミリー。

メグ： どうしてだよ？

リンカーン： まさか俺たちが偽物ってことか？

ミッチ： きつと。スミス佐藤くんが作り上げた架空の家族なんだ、僕たちは。

間。

メアリー… 架空？架空って立ってる人の膝を後ろからこう

リンカーン… それ、膝カクンな。じゃあさ、電車で居眠りしてる時に首がこう

メグ… それ、カクーンね。じゃあ、メキシコにある海岸でこう？

ぼく… それ、カンクーンね。

一同納得。「おお〜」。

ぼく… あ、もついい？

ミス・ヴァリー… それで、作っただんですか？この家族を。

ぼく… そうだよ。でもさ、誰にも迷惑かけてないよね？そりゃまあこのHEADカンフェレンスのプレゼンで、まるで本当にこういう家族があるかのような説明しちゃったのはマスかったかもだけど、でも誰かに迷惑かけた？かかるわけないよね、だってぼくの頭ん中だよ、あなた達。

ミッチ… え？

メグ… え？

メアリー、リンカーン… エー……

ぼく… ぼくの頭の中だけに存在する家族なんだから、誰にも迷惑かけてないの、分かる？もついいでしょ。

ミス・ヴァリー… …。

メアリー… あのみ、妄想スミスくん野郎、ぶっちゃけ死ぬほど迷惑なんだけど。

ぼく… は？

メグ… ちゃった。

メアリー… は？じゃねえから。

みんなだってそうだよね？私たちが、めっちゃ疲れてんじゃん。いつも笑顔でいていつも元気でいつも明るくていつも賑やかでいつも華やかで、誰にでも好かれようとして、怒らなくて、良い人で、機嫌良く、面倒見が良くて、人気者で。その上英語も喋って。でもだんだん演じきれなくなってきたんじゃない。ねっ。

ミッチ、メグ：（モコモコしながら）いや・・・そんなことは・・・どうかな？そうかな？

リンカーン： そうだろ。

メアリー： リンカーンだってそうだよ、いつも側にいてくれて、元気で、明るくて、はしゃいでて。本当はボールでなんて遊びたくない時だってあるよ。

リンカーン： それはない！俺はいつだってボールで遊びたい！それに、俺はメアリーラブだから。メアリーにハッピーでいてもらいたいから。

メグ： なんて良い雑種に育ったんでしよう。

ミッチ： きみのおかげだよ。

メグ： あなたの

ほく： ほくのおかげだよ。

ミッチ、メグ： あ・・・。

メアリー： 私もうさ、すごい疲れたんだよね。だから普通でいいよ。普通以下でもいいかも。もうよくわかんない。とにかく、私のことこれ以上使わないでね。使わないっていつのか、想像しないでっていつのか、演じしないでっていつのか。

リンカーン： なんか、エロいなメアリー。

ほく： でも、それじゃあ、あなたは「この世」「この世」からいなくなっただけじゃない。

メアリー： あそっか。でも元からいないんでしょ、「この世」「この世」の人のことじゃないや。ハッピー演じるの超疲れたから。バカみただし。気持ち悪いし。じゃあね。

スタスタと劇場の扉へ向かって一人で歩き出すメアリー。

リンカーン： メアリー。

メアリー： リンカーン、いつもありがとね。大好きだよアイラブユー。でもね、私はもう出て行くの。こんなくたらないことと止めることにしたから。リンカーンも止めていいんだよ。止めて、好きなところに行っていいいんだよ。私は、ここを出て、外の世界を見る。

メグ： (独り言) 外の世界・・・。

メアリー： だってさ、私さ、この、うちのリビングルーム以外の世界を知らないって気がついてびっくりしたよ。バイト行ってるつもりだったけど、考えてみたら何のバイトやってるのかも知らない。でもきつと、本当の世界は広いんだ。

ミッチ： (独り言) 世界は広い。

メアリー： それを、見に行くんだよ。自分の足で。外に出る。自由になる。自由になりたい。こんなアホみたいなこと止めて。私たち、本当は誰もここから外に出た事がないんだよ。だって、このリビングルーム以外の世界は存在しないから。だから。自由になる。

ぼく： (独り言) 自由だ。

リンカーン： なんだよメアリー、今までで一番素敵だよ！一緒に行っていい？

メアリー： このスミスクソミクス野郎の頭から出たら、どうなるか分からないよ、いなくなっちゃうかもしれないよ、私たち。自由になるっていう、覚悟をしなくちゃいけないよ。それでも良いなら。一緒に行くこうリンカーン。カモン！

リンカーン： イエスオフコース、アイラブメアリー！俺はどこまでも一緒にせつウギャザーメアリー！

メグ… だってパートナーだから、私たち。

ミッチ… あ、うん、それにしても、歌上手だったねいやダンスかいやあればタンゴか…

とかなんとか言いながら、ミッチとメグも客席を通過して劇場を出る。

間。

ミス・ヴァリー… じゃあ… 私もこれで。今度は本当に。さようなら。

と言って、ミス・ヴァリーも劇場を出る。

素舞台上に一人ぼっちのぼく。

ぼく… あーあー。なんだこれ。本当に一人になっちゃったよウケる。なにこれ。

(間)

(客席に気づく)あ、なんだか結局お見苦しいものをみなさまにお見せしてしまいましたね。すみません。こんなになってしまったが、ぼくが今日ここで話したかったのは、自分の頭の中にハッピーなファミリーを持っていると、人は幸せに生きられる、ということだったのです。そんな、とても簡単なことだったのです。頭の中にハッピーなマウンテンポイントファミリーを持っていると、ぼくはいつもハッピーでいられる。彼らにぼくのハピネスを作ってもらおうから。

そうすると、ぼくはいつも明るくて、いつも笑顔で、いつも元気でいられる。いつも機嫌が良くて、気分も良くて、愛想も良くて、愛嬌もあって。爽やかに面白くて頼りになって。そうすると、必ず人に好かれます。絶対に嫌われない。人気者になれる。いつも沢山の人が周りにいて、ぼくと友達になりたがる。だから、もちろんいじめられること

もないし、ハブにされることもない。泣くこともないし、寂しいこともないし、孤独を感じることもない。二度と一人ぼっちにはならない。みんな、ぼくがいないとつまらないと感じるようになって、結果、ぼくといたがるようになって。だってぼくと一緒にいると楽しいから。ぼくは、いつもハッピーで楽しい人だから。

その、何が嫌なのか全然分からないんだよ。いいじゃん。っていうか、すげえいいじゃん。人に好かれるの。別に嫌われてもいい、なんて人いる？いねえだろ。だって人に好かれるの超楽しいじゃん。超気持ちいいじゃん。疲れるってなんだよ。ハッピーが疲れるってなんだよ。

(間)

(話を終わらせようとする)はい。つまり。ぼくの話はさうじやないです。(まっや楽しいうた)なんじやないです。ハッピーを演じるのは、疲れる。終わります。ありがとうございました。

ぼく、お辞儀をして逃げるようにして客席を通過して劇場から去るじやないです。

途中で立ち止まり、慌てて舞台上に戻って来る。

ぼく： 客席のみなさん、HEADカンフェレンスのみなさん、ぼくにもうちゅっとだけお話しさせてください。ちょっとだけ。気がついたことがあるんです。今、やらないと。もうちょっとだけ、お付き合ってください。

(深呼吸)

では、あ、朝のじやないです。

M1と同じイントロが流れる。誰も出てこない。虚しく響き渡るハッピーな前奏。

ぼく： 痛い。痛いじゃない。そうじゃないんだ。

すいません。もう一回。もう一回お願いします。

(深呼吸)

あゝ、普通の朝のことです。

♪M8「サッ下な普通のモーニング」

M1と似たメロディ。でも、ちっとも華やかではない、が、とても心地よいメロディ。M1と同じ順番、同じ手順でそれぞれが出てくる。そして、M1と同じように、曲中にリヴィンブルームをセットアップする。

リンカーン： グッドな普通のモーニング

良い朝だ でももっと寝てたかった

メグ： グッドな普通のモーニング

良い天気 朝食くらい自分で作れ

ミッチ： グッドな普通のモーニング

良い気分

なんで朝から腹が減るんだ

メアリーの番だけと出てこない。メアリーが歌うべきところが虚しく流れる。

ぼく： グッドな普通のモーニング

でも今日は普通じゃないモーニング

ぼく： (穏やかに、そして怖がりながら) メアリー、ぼくにお祝いさせて。みんな、隠れて。
リンカーン： おおっ！俺それわかった！おいスミス、俺それ分かったぜーそれ、『サブ
ミッチ、メグ： ユーシャッタファックアップ！
リンカーン： はい・・・。

みんな隠れる。

ぼく： ハイハイ マイガール メアリー

ミッチ、メグ、リンカーン： ハイハイ マイガール メアリー

ぼく： ハイハイ マイガール マイガール メアリー

一瞬の静寂。なんの音もしない。誰も動かない。
メアリーが玄関から入ってくる。

メアリー： もうなんなの？あれ？誰もいないの？

ぼく： (小声で) せーの、

ミッチ、メグ、リンカーン、ぼく… サプライズ!

ミッチ、メグ、リンカーン、ぼく… ハッピーバースデートゥーユー
ハッピーバースデートゥーユー
ハッピーバースデー アウディア メアリー
ハッピーバースデートゥーユー

ミッチ… ハッピーバースデー、メアリー。

メグ… ハッピーバースデー、マイバースデーガール。

リンカーン… ハッピーバースデー、メアリーマイラヴ。

ぼく… おめでとう、メアリー。そして、ありがとう。

メアリー… ミスタースミス佐藤。

メアリー… ありがとうサンキュー

みんなみんな 私嬉しいハッピーよ

ミッチ・メグ・リンカーン・ぼく… おめでとハッピー メアリーメアリー
みんな嬉しいハッピーだ

全員… グッドな普通のモーニング
でもスペシャルなモーニング

だってハッピーなバースデー
私たち最高家族 でも普通の家族
それで良い それがハッピー

リンカーン： ワンワフワフーン。

メグ： ランラララーン。

ミッチ： ハイハハハイ。

ぼく： じゃんじゃかじゃーん。

メアリー： ニコニコーン。

全員： グッドな普通のモーニング
でもスペシャルなモーニング
だってハッピーなバースデー
私たち最高家族 でも普通の家族
それで良い それがハッピー

【おまけ】

